

大学・高専機能強化支援事業（支援2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）  
【大学 一般枠、特例枠】実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F117310105460	改組内容	研究科等の設置・増員（一般枠）
大学名	金沢工業大学	設置区分	私立	事業計画名	金沢工業大学における社会実装型教育研究の実践を通じた高度情報専門人材の育成
学校種	大学	都道府県	石川		

1. 年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
			R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
令和6年度	<p>【情報系組織の入学定員】 &lt;博士&gt;11人、&lt;修士&gt;32人、&lt;学士&gt;540人 工学研究科情報工学専攻（博士後期課程） 入学定員5人 工学研究科システム設計工学専攻（博士後期課程） 入学定員6人 工学研究科情報工学専攻（博士前期課程） 入学定員18人 工学研究科システム設計工学専攻（博士前期課程） 入学定員8人 工学研究科ビジネスアーキテクト専攻（修士課程） 入学定員6人 工学部情報工学科 入学定員200人 工学部ロボティクス学科 入学定員100人 情報フロンティア学部メディア情報学科 入学定員120人 情報フロンティア学部経営情報学科 入学定員60人 情報フロンティア学部心理学科 入学定員60人</p> <p>【設置認可申請又は届出等の計画】 12月 工学研究科情報工学専攻（博士前期課程）、工学研究科システム設計工学専攻（博士前期課程） 収容定員に係る学則変更届出予定</p>	<p>【情報系組織の入学定員】 &lt;博士&gt;11人、&lt;修士&gt;32人、&lt;学士&gt;540人 工学研究科情報工学専攻（博士後期課程） 入学定員5人 工学研究科システム設計工学専攻（博士後期課程） 入学定員6人 工学研究科情報工学専攻（博士前期課程） 入学定員18人 工学研究科システム設計工学専攻（博士前期課程） 入学定員8人 工学研究科ビジネスアーキテクト専攻（修士課程） 入学定員6人 工学部情報工学科 入学定員200人 工学部ロボティクス学科 入学定員100人 情報フロンティア学部メディア情報学科 入学定員120人 情報フロンティア学部経営情報学科 入学定員60人 情報フロンティア学部心理学科 入学定員60人</p> <p>【設置認可申請又は届出等の計画】 10月 工学研究科情報工学専攻（博士前期課程）、工学研究科システム設計工学専攻（博士前期課程） 収容定員に係る学則変更届出（R6.10.29届出）</p>	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
	<p>①8月 令和7年4月の情報工学専攻とシステム設計専攻の定員増を見越して、教育研究環境整備（A工事）として、31号館3階に研究所のサテライトを設置（改修工事着工） ②3月 研究所サテライト（31号館3階）改修工事を完成 ③3月 教育研究環境の充実のため、研究所サテライト（31号館3階）に機器及び什器を設置 ④研究所サテライト（31号館3階）では、高度情報専門人材（情報技術による価値創造）の育成を目的とし、研究プロジェクトを立ち上げ、推進する</p>	<p>①8月 令和7年4月の情報工学専攻とシステム設計工学専攻の定員増を見越して、教育研究環境整備（A工事）として、31号館3階に研究所のサテライトを設置（改修工事着工） ②3月 研究所サテライト（31号館3階）改修工事を完成 ③3月 教育研究環境の充実のため、研究所サテライト（31号館2,3階）に機器及び什器を設置（R7.3.12承認） ④研究所サテライト（31号館2,3階）では、高度情報専門人材（情報技術による価値創造）の育成を目的とし、研究プロジェクトを立ち上げ、推進する。（R7.3.12承認）</p>		
令和7年度	<p>【情報系組織の入学定員】 &lt;博士&gt;11人、&lt;修士&gt;63人、&lt;学士&gt;620人</p> <p>4月 工学研究科情報工学専攻（博士前期課程） 22人増員（入学定員40人） 4月 工学研究科システム設計工学専攻（博士前期課程） 9人増員（入学定員17人） 4月 情報理工学部情報工学科 学科の設置（入学定員120人） 4月 情報理工学部知能情報システム学科 学科の設置（入学定員120人） 4月 情報理工学部ロボティクス学科 学科の設置（入学定員80人） 4月 メディア情報学部メディア情報学科 学科の設置（入学定員140人） 4月 メディア情報学部心理情報デザイン学科 学科の設置（入学定員60人） 4月 情報デザイン学部経営情報学科 学科の設置（入学定員60人） 4月 情報デザイン学部環境デザイン創成学科 学科の設置（入学定員40人）</p>		R7年度自己評価	リストから選択してください。
	<p>①6月 情報工学専攻とシステム設計専攻の学年進行にあわせ、教育研究環境整備（B工事）として、12号館2階に研究所のサテライトを設置（改修工事着工） ②9月 研究所サテライト（12号館2階）改修工事を完成 ③9月 教育研究環境の充実のため、研究所サテライト（12号館2階）に機器及び什器を設置 ④研究所サテライト（12号館2階）では、高度情報専門人材（文理探究型プロジェクト人材）の育成を目的とし、研究プロジェクトを立ち上げ、推進する ⑤研究所サテライト（31号館3階）では、高度情報専門人材（情報技術による価値創造）の育成を目的として、研究プロジェクトを継続的に推進する</p>			
令和8年度	<p>【情報系組織の入学定員】 &lt;博士&gt;11人、&lt;修士&gt;63人、&lt;学士&gt;620人</p> <p>①5月 情報工学専攻とシステム設計専攻の教育研究環境整備（C工事）として、6号館1階に研究所のサテライトを設置（改修工事着工） ②9月 研究所サテライト（6号館1階）改修工事を完成 ③9月 教育研究環境の充実のため、研究所サテライト（6号館1階）に機器及び什器を設置 ④研究所サテライト（6号館1階）では、大学院生同士のコミュニティ形成及び産業界と連携したプロジェクトを推進する ⑤研究所サテライト（31号館3階）では、高度情報専門人材（情報技術による価値創造）の育成を目的として、研究プロジェクトを継続的に推進する ⑥研究所サテライト（12号館2階）では、高度情報専門人材（文理探究型プロジェクト人材）の育成を目的とし、研究プロジェクトを継続的に推進する</p>		R8年度自己評価	リストから選択してください。
	<p>①研究所サテライト（31号館3階）では、高度情報専門人材（情報技術による価値創造）の育成を目的として、研究プロジェクトを継続的に推進する ②研究所サテライト（12号館2階）では、高度情報専門人材（文理探究型プロジェクト人材）の育成を目的とし、研究プロジェクトを継続的に推進する ③研究所サテライト（6号館1階）では、大学院生同士のコミュニティ形成及び産業界と連携したプロジェクトを継続的に推進する</p>			
令和9年度	<p>【情報系組織の入学定員】 &lt;博士&gt;11人、&lt;修士&gt;63人、&lt;学士&gt;620人</p> <p>【設置認可申請又は届出等の計画】 12月 工学研究科情報工学専攻（博士前期課程）、工学研究科システム設計工学専攻（博士前期課程） 収容定員に係る学則変更届出予定</p>		R9年度自己評価	リストから選択してください。
	<p>令和11年度の情報系3専攻の定員増を見越して、教育研究環境の充実のため、機器の追加導入 ① 8月 研究所サテライト（31号館3階）の機器の追加導入 ② 8月 研究所サテライト（12号館2階）の機器の追加導入 ③ 8月 研究所サテライト（6号館1階）の機器の追加導入 ④研究所サテライト（31号館3階）では、高度情報専門人材（情報技術による価値創造）の育成を目的として、研究プロジェクトを継続的に推進する ⑤研究所サテライト（12号館2階）では、高度情報専門人材（文理探究型プロジェクト人材）の育成を目的とし、研究プロジェクトを継続的に推進する ⑥研究所サテライト（6号館1階）では、大学院生同士のコミュニティ形成及び産業界と連携したプロジェクトを継続的に推進する</p>			
令和10年度	<p>【情報系組織の入学定員】 &lt;博士&gt;11人、&lt;修士&gt;63人、&lt;学士&gt;620人</p> <p>【設置認可申請又は届出等の計画】 12月 工学研究科情報工学専攻（博士前期課程）、工学研究科システム設計工学専攻（博士前期課程） 収容定員に係る学則変更届出予定</p>		R10年度自己評価	リストから選択してください。
	<p>令和11年度の情報系3専攻の定員増を見越して、教育研究環境の充実のため、機器の追加導入 ① 8月 研究所サテライト（31号館3階）の機器の追加導入 ② 8月 研究所サテライト（12号館2階）の機器の追加導入 ③ 8月 研究所サテライト（6号館1階）の機器の追加導入 ④研究所サテライト（31号館3階）では、高度情報専門人材（情報技術による価値創造）の育成を目的として、研究プロジェクトを継続的に推進する ⑤研究所サテライト（12号館2階）では、高度情報専門人材（文理探究型プロジェクト人材）の育成を目的とし、研究プロジェクトを継続的に推進する ⑥研究所サテライト（6号館1階）では、大学院生同士のコミュニティ形成及び産業界と連携したプロジェクトを継続的に推進する</p>			
令和11年度	<p>【情報系組織の入学定員】 &lt;博士&gt;11人、&lt;修士&gt;78人、&lt;学士&gt;620人</p> <p>4月 工学研究科情報工学専攻（博士前期課程） 8人増員（入学定員48人） 4月 工学研究科システム設計工学専攻（博士前期課程） 3人増員（入学定員20人） 4月 工学研究科ビジネスアーキテクト専攻（修士課程） 4人増員（入学定員10人）</p>		R11年度自己評価	リストから選択してください。
	<p>①研究所サテライト（31号館3階）では、高度情報専門人材（情報技術による価値創造）の育成を目的として、研究プロジェクトを継続的に推進する ②研究所サテライト（12号館2階）では、高度情報専門人材（文理探究型プロジェクト人材）の育成を目的とし、研究プロジェクトを継続的に推進する ③研究所サテライト（6号館1階）では、大学院生同士のコミュニティ形成及び産業界と連携したプロジェクトを継続的に推進する</p>			
令和12年度	<p>【情報系組織の入学定員】 &lt;博士&gt;11人、&lt;修士&gt;78人、&lt;学士&gt;620人</p>		R12年度自己評価	リストから選択してください。
	<p>①研究所サテライト（31号館3階）では、高度情報専門人材（情報技術による価値創造）の育成を目的として、研究プロジェクトを継続的に推進する ②研究所サテライト（12号館2階）では、高度情報専門人材（文理探究型プロジェクト人材）の育成を目的とし、研究プロジェクトを継続的に推進する ③研究所サテライト（6号館1階）では、大学院生同士のコミュニティ形成及び産業界と連携したプロジェクトを継続的に推進する</p>			

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	金沢工業大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。		
	確認を受けている	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
	対象に該当しない	<input type="checkbox"/> チェック

② 志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。		
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）		
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	

④ 特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。		
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	

⑤ 計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。		
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	

⑥ 特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）、含む。）（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学期において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。		
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	

⑦ 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。		
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	

⑧ 教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）		
既設の情報系分野に係る研究科等を有する	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	

⑨ 機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。		
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	

⑩ 計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。		
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	

⑪ 国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中期目標期間終了時までに他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。		
計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	

⑫ 教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。		
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	

⑬ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。		
認定を受けている、又は対象に該当しない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	
認定を受ける計画が進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック	

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。		
認定を受けておらず申請する意向もない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	金沢工業大学
-------------	-------	-----	--------

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。  
 計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>本学では、教員の研究室活動（教員と学部4年生・大学院生との協働活動）と企業との連携した社会実装型教育研究を推進している。令和4年度企業等との受託・共同研究実績は212件/154社であり、この研究室と企業との連携活動は、研究の高度化と共に、学生の成長やキャリア形成に大きく寄与している。近年、本学キャンパス内に企業との共同ラボを開設した。この企業と連携した共同ラボの開設は、大学全体（各専門領域）で、「DX、GX、SX」へのアプローチを推進するものである。令和4年度に「KIT×Kajima 3D printing Lab（鹿島建設）」開設、令和5年度に「KIT×NTT-AEスマートエネルギーラボ（NTT-AE）」、「ブリッジ・イノベーション・ラボラトリー（産業技術総合研究所）」を開設した。これらはいずれも、社会課題・ニーズに対し、大学院レベルでアプローチとする。今後も継続して「企業との連携したラボの設立」を計画している。また世界産学連携教育協会（WACE）が提唱する「CWIE：Cooperative &amp; Work-Integrated Education」の取組として、協定を締結した企業と大学院進学予定者と大学院在籍者が有給で4～6ヶ月間、企業で就業できる「KITオープン教育プログラム（正課教育）」を実施している。令和5年度は17名（12社）が採用された。この取組も継続的に拡大させることを計画している。また令和2年度より、産学協働イノベーション人材育成協議会「C-ENGINE」に参画しており、これまで6社（10名）の企業に大学院生が研究インターンを行っており、この取組も推進する。現在、県内6つの自治体と連携協定を締結しており、令和6年1月1日の能登半島地震で被災された地域の復興・振興に向けた支援を社会実装型教育研究として取組む計画をしている。</p>	<p>●本学では、研究の高度化を図るとともに、学生の成長やキャリア形成を目的として、企業等と連携した社会実装型教育研究を推進している。その基盤となる企業等との受託・共同研究の令和6年度実績は、241件（198社）であり、引き続き本取組を推進する。</p> <p>●社会課題やニーズに対して大学院レベルでアプローチすることを目的に、企業と連携した共同ラボの設置を推進している。令和6年度は、複合材料の廃棄物を貴重な資源と見なし、次世代の持続可能性を保障する先進的な循環経済の創出を目的として、ドイツのフロンホーファー研究機構（製造・複合材料・加工技術研究所）と連携し、共同研究開発・事業化拠点「FIP-MIRAI@ICC」を本学キャンパス内の革新複合材料研究開発センター（ICC）に開設した。</p> <p>●大学と企業による共同プログラムにより、企業における実業務を通じて理論と実践を有機的に学ぶ「KITオープン教育プログラム（選択科目）」には、令和6年度に21社から30名の学生が参加した。11月にはNECソリューションイノベータ株式会社および西日本電信電話株式会社のプログラムに参加した学生による成果報告会を実施した。</p> <p>●大学院生の研究インターンシップ機会の創出を目的として、5月に「KIT主催 C-ENGINE加盟企業交流会」を開催した。交流会では、塩野義製薬株式会社、大日本印刷株式会社、日東電工株式会社、三菱電機株式会社の4社および学生43名（うち本学学生は23名）が参加し、産学連携による研究課題の創出や今後の連携に向けた意見交換を行った。</p> <p>●令和6年1月1日に発生した能登半島地震に対して、建築工学専攻、環境土木工学専攻とシステム設計工学専攻の各分野の教員が連携し、専門的知見を活かして復旧・復興支援に資する現地踏査を実施した。今後、報告会を開催する予定である。</p>	

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>本学は、平成15年度から高等学校教諭を対象に、毎年、数理工教育セミナー（現在76校参加）を開催してきた。この取組は、高校数理教育から大学数理教育へのシームレスな連携と各現場が抱えている課題をお互いに共有し、互恵することを目的としている。平成17年度には高校教諭との間で数理工教育セミナーの会議体として「高大連携による数理教育研究会」の発足に至った。この研究会では、高校と本学が共通課題として「授業の工夫改善方法、学力低下問題、論理的思考力の育成、GIGAスクール構想への対応、情報教育・AI教育への取組など」を進めている。今後も継続的な活動（情報交換・研究・教材開発）として、数理教育と情報教育の充実を図る計画である。また本学は、高等教育機関として初めて第1回ジャパンSDGsアワード（平成29年）官房長官賞を受賞した。これを契機に全学的組織とする「SDGs推進センター」を設立し、SDGsの担い手を育成する「ESD推進事業」を実施してきた。これまで、SDGs教育を初等中等教育（19校）との連携、ゲームフィクション教材（8種類）の開発、令和4年度に「Beyond SDGs 人生ゲーム」を株式会社タカラトミー他と共同で開発して全国47都道府県の初等中等教育関係者（延べ286校）に無償配布した。同年にはSDGsイノベーション教育実践者コミュニティを形成し令和2年度から小中高生向けに「全国作文コンテストを主催（協賛：ジャパンSDGsサミット運営委員会）」を実施している。この取組を拡大し、大学院の専門領域の教育研究活動（例：スマートシティ、災害対策など）に拡大して、初等中等教育へのフィードバックを計画している。</p>	<p>●高校と大学が連携し、数理教育における共通課題の解決と教育の質の向上を目的として、「高大連携による数理教育研究会」を継続的に実施している。令和6年度には、通算第76回となる研究会を開催し、「STEAM教育と探究活動」をテーマとして研究・教材開発に関する事例紹介と意見交換を行った。同研究会には、県内外の高等学校12校から14名の教諭が参加した。</p> <p>●高等学校における教育DXの推進を支援する「DXハイスクール応援プログラム」を実施し、高大連携事例の紹介やセミナー・ワークショップ等を通じて各校との関係構築を進めている。令和6年度には新たに7校の高等学校と連携協定を締結した。今後、PBL教育や教育評価法に関する共同研究等を実施する計画である。</p> <p>●初等教育との連携に向けた取組として、令和6年12月には「SDGsユース沖縄会議2024」を開催し、SDGs推進センターが開発したゲームフィクション教材を活用して、楽しみながらSDGsの課題とその解決策を学ぶ機会を提供し、沖縄県内の小学生から大学生まで約40名が参加した。また、令和7年1月には「カナザワ ドローンプログラミングチャレンジ2025」を開催し、情報工学専攻の教員が一般社団法人FAPおよび北陸大学ものづくりラボと連携して、ドローンプログラミングによる実践的なSTEAM教育を実施し、県内の小学生19名が参加した。</p>	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>●令和7年度入学試験で「女子奨学金給付型の総合選抜入試」を全学部学科で実施する。学生入学後は、女子学生全員を対象に「女子学生キャリアアップ講座」や「女子学生キャリア支援プログラム」の開発と運用する計画をしている。</p> <p>●本学は、全学部学科に社会人が授業に参加し学生を指導し共に学ぶ社会人共学者制度を運用している。社会人は科目等履修生（受講料免除）制度の中でリカレント・リスキングを回り、学生の学びと意欲が触発されている。今後は、現在実施している情報技術教育プログラム（内容：AIとビッグデータ、IoTとロボティクス、ICTと情報セキュリティ；令和3～5年度迄の社会人・科目履修者は延べ89名）の充実を図り、社会人の大学院進学を増やすことを計画する。</p> <p>●ベトナムにあるVJIT（越日工業大学）と連携協定を結び、本学のプロジェクトデザイン(PD)教育プログラムを提供（教員養成を含む）して、本学への編入学と大学院当該専攻への進学の仕組を計画する。また、スリランカ日本情報科学短期大学(LNBTI)と単位互換・連携協定を結び、令和6年度には情報工学科へ3年次生3名が編入学する。これら学生を高度情報専門人材として育成することに注力する。そのため、学部段階から「授業の英語化」を更に進める。</p>	<p>●本大学院では、学部からの内部進学者が90%以上を占めている現状を踏まえ、多様な背景を持つ志願者の確保に向けた取組を推進している。令和6年度には、全学部において、女子学生を対象とした給付型奨学金を支給する「総合選抜（女子奨学生）」を実施した。また、新入生の女子学生を対象としたキャリア支援プログラム「女子学生のためのキャンパスライフサポート（キャリアデザイン編）」も展開した。</p> <p>●全学部において、社会人が授業に参加し学生と共に学ぶ「社会人共学者」として、県内外18企業から計39名が本学の正課授業に参画した。また、社会人が学生や教員と共に、AIやIoT等の先端情報技術を学ぶ「令和6年度情報技術教育プログラム（AIとビッグデータ、IoTとロボティクス、ICTと情報セキュリティ）」を開講し、延べ42名の社会人が受講した。リカレント教育・リスキング教育を契機に、社会人の大学院進学を促進する計画である。社会人が大学院へ進学する際の課題を把握するため、令和6年度には「KIT人材開発セミナー2024」において社会人を対象としたアンケート調査を実施した。今後は、対応可能な課題への具体策を検討するとともに、リカレント教育プログラム等に参加する社会人への情報提供を進める予定である。</p> <p>●令和6年8月には、ベトナムの越日工業大学（VJIT）において、PD Innovationに係る合同研修を実施した。また、スリランカ日本情報科学短期大学（LNBTI）との連携に基づき、同短期大学からの編入生3名を情報工学科3年次に受け入れた。さらに、国際化および留学生の学修支援の一環として、英語による授業提供を推進しており、国際教養理工学課程において5科目（PD I、PD II、PD Innovation、線形代数学、実践ウェルビーイング）を英語で開講した。</p>	

④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>(1)米国ロチェスター工科大学との国際共同学位プログラム（デュアルディグリー）の推進： 本学大学院工学研究科の情報工学専攻とロチェスター工科大学(RIT)との間で、大学院の国際共同学位プログラム（デュアルディグリー）の運用を平成30年から実施している（学位授与実績：両大学から1名ずつ）。教育研究の観点では、情報工学専攻の教員をRITへ1年間(令和4年度)派遣し、現地で形成されたネットワークを生かした国際共同教育研究（共着論文、授業科目開発、国際コオプ）を推進していると共に、更に本学他専攻にも拡大することを計画している。令和5年度は大学院生2名（情報工学専攻1名、機械工学専攻1名）が留学しており、今後もRITと連携強化を図る。</p> <p>(2)地域の大学院との連携の推進： 北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）と金沢大学の三大学間との交流と協力を促進し、教育研究内容の充実を図るため、単位互換協定(大学院)を平成11年から締結している。平成24年には、「JAISTと大学院間連携共同教育推進事業（文部科学省）『実践力と創造力を持つ高信頼スマート組込みシステム技術者の育成』」の取組を共同開発事業として実施した。こうした教育カリキュラムの共同作成等での連携を図り、成長分野をけん引するデジタル人材の育成を積極的に推進する。</p> <p>(3)国際高等専門学校との大学院一貫教育（KITスクールシステム）の推進： 併設校の国際高等専門学校と本学は、スクールシステムとして、高専（国際理工学科）→大学（情報理工学部）→工学研究科（情報工学専攻）の9年一貫教育で、高度情報専門人材の育成をグローバルな観点から推進する。この連携からグローバルに活躍できる人材育成に注力する。</p>	<p>(1) 米国ロチェスター工科大学との国際共同学位プログラム（デュアルディグリー）の推進については、令和6年度（令和7年1月）に情報工学専攻の教員を同大学へ派遣し、今後の連携強化に向けた協議を実施した。また、令和6年度は、機械工学専攻の大学院生1名が本プログラムを修了した。</p> <p>(2) 地域の大学院との連携については、協定に基づき、各大学間で履修に関する情報提供を行ったものの、令和6年度においては学生の派遣・受入は行われなかった。一方で、本学を拠点校として、金沢大学および北陸先端科学技術大学院大学等とともに、北陸二県の他大学との連携体制を構築し、文部科学省「大学教育再生戦略推進員（半導体人材育成拠点形成事業）」への申請準備を進めている。</p> <p>(3) 国際高等専門学校との大学院一貫教育（KITスクールシステム）の推進においては、併設校である国際高等専門学校から、令和6年度に4名の学生が入学した。国際高等専門学校と金沢工業大学が連携して実施する授業科目「Internship I」（選択科目）では、国際高等専門学校4年生が金沢工業大学の研究室を受入先に選び、本学教員と協議のうえ、自身が選択する研究テーマに関するプロジェクトに取り組み実践型学習を行っている。令和6年度は6名が受講した。</p>	







































大学名	金沢工業大学	改組内容	研究科等の設置・増員（一般枠）
-----	--------	------	-----------------

#### 4.外部資金の状況（全学）

年度		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	993,973																		

#### 特記事項

大学院設置基準 第四章 収容定員に基づき、適正に入学定員を設定している。なお、各回答項目における入学定員の注釈は次のとおりである。  
「1. 本事業対象となる情報系組織の状況」の内、「1-1. 博士課程」の工学研究科情報工学専攻、および工学研究科システム設計工学専攻のR6年度及びR7年度の春季入学定員数には、その他の学期の入学定員数を含む。  
また、「1-2. 修士課程」の工学研究科情報工学専攻、工学研究科システム設計工学専攻、及び工学研究科ビジネスアーキテクト専攻のR6年度及びR7年度の春季入学定員数には、その他の学期の入学定員数を含む。

「1. 本事業対象となる情報系組織の状況」の内、「1-3. 学士課程」のR7年度の編入学定員 0人は若干名を意味している。

「2. 情報系組織の状況」の内、「2-1. 博士課程」のR6年度及びR7年度の春季入学定員数には、その他の学期の入学定員数を含む。  
また、「2-2. 修士課程」のR6年度及びR7年度の春季入学定員数には、その他の学期の入学定員数を含む。

「2. 情報系組織の状況」の内、「2-3. 学士課程」のR7年度の編入学定員 0人は若干名を意味している。

「3. 大学全体の状況」の内、「3-1. 博士課程」のR6年度及びR7年度の春季入学定員数には、その他の学期の入学定員数を含む。  
また、「3-2. 修士課程」のR6年度及びR7年度の春季入学定員数には、その他の学期の入学定員数を含む。